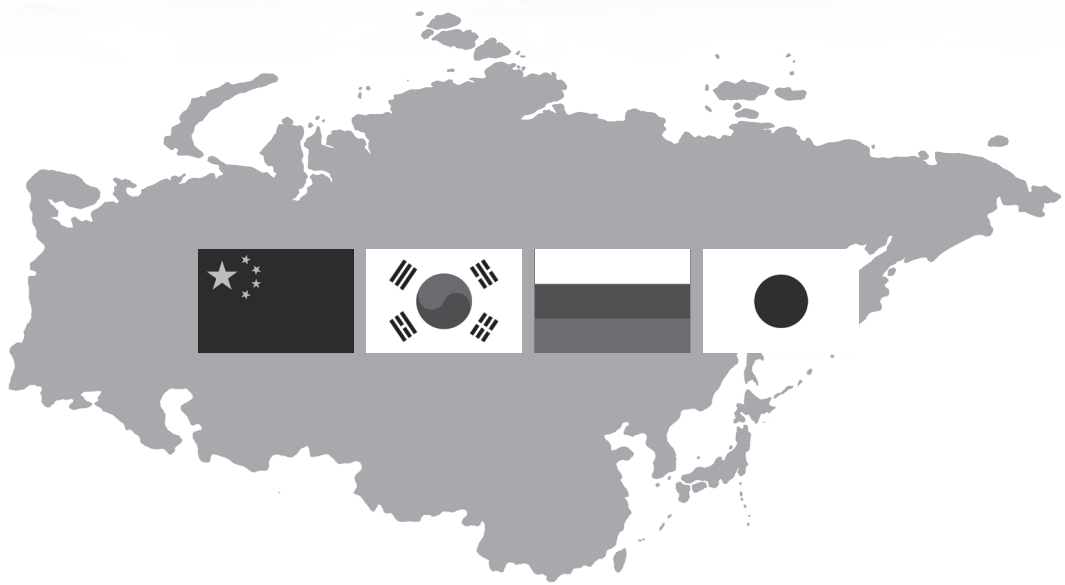
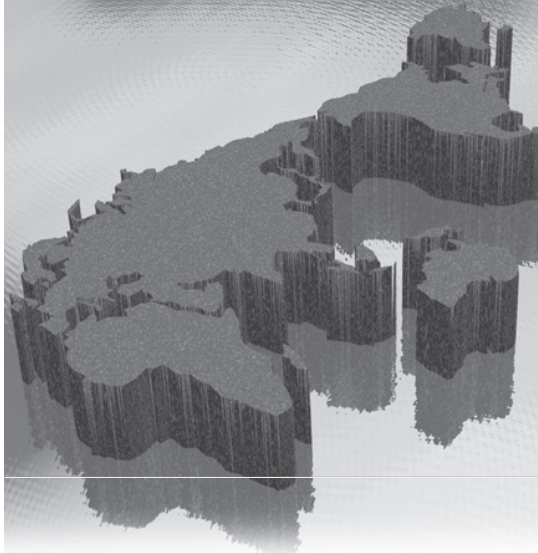


2013 北東アジア交流の翼inしまね 報告書



主催／島根県・(公財)しまね国際センター 後援／北東アジア地域自治体連合



は じ め に

8月2日から8月7日までの6日間にわたり開催いたしました「2013北東アジア交流の翼 in しまね」におきまして、ご協力をいただきました多くの皆様に厚くお礼申し上げます。

この事業は、北東アジア地域の将来を担う若い世代の方たちが、島根県での交流プログラムを通じて、各地域の相互理解と北東アジア地域の新しいネットワークづくりを行うことを目的としています。

今年度は、中国は寧夏回族自治区及び吉林省から、韓国は東国大学校及び威徳大学校から、ロシアは沿海地方及び海洋国立大学からご参加いただき、島根県の青年がお迎えしました。

今回のテーマは「福祉」でした。事前に各国の福祉制度について学習してきた青年たちは、高齢者介護施設を訪問し、現場の声を聴きました。それらの体験をもとに活発な意見交換が行われ、国ごとに福祉に対する考え方に違いがあることや、それぞれが抱えている課題があることを学びました。

同時にそれは、いつまでも自分らしく幸せに生きるとはどういうことかを考える、意義深い時間となりました。きっと参加されたみなさんは、今後につながる「気づき」を持ち帰られたことと思います。

外国青年に日本文化を紹介するために用意したプログラム「和太鼓の体験」では、みんなの心がひとつになり笑顔があふれました。短い時間でしたが、しまね国際センター等での宿泊体験や様々な交流活動を通して、言葉や文化の違いを越えた、友情の絆が結ばれたことと思います。

また、ホストファミリーの皆様には2泊にわたり外国人青年を温かく迎えていただきました。家庭での普段着の交流を通じて、日本の家庭での生活習慣・文化を感じ取ることができ、新たな発見の連続だったことと思います。外国青年からは、「ホームステイ先のご家族がとても親切にしてくれました」、「日本の生活や文化をたくさん知ることができました」、「とても楽しかった!」、「また日本のご家族に会いたいです」などの感想が多く寄せられました。人生観を変えるような貴重な機会をご提供いただきましたホストファミリーの皆様には、改めて感謝申し上げます。

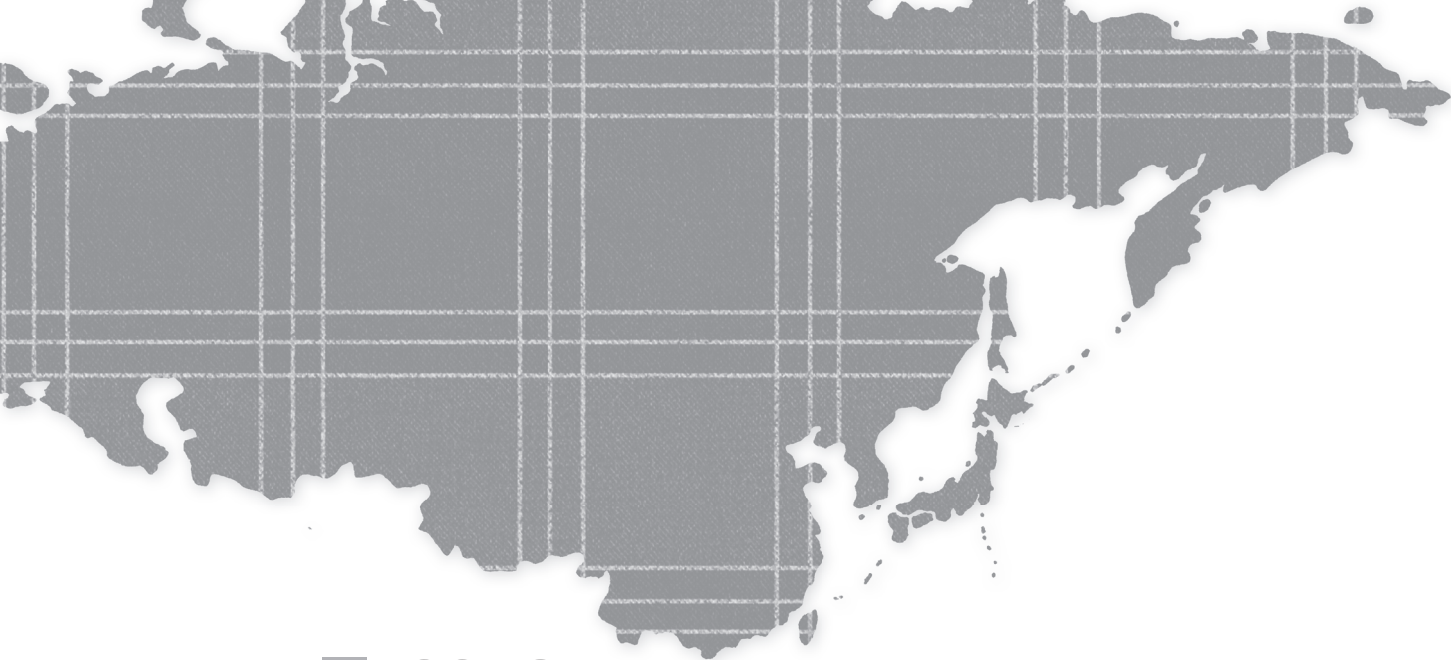
島根県の参加者のみなさんには、プログラムの企画・立案から運営に至るまで、主体的に携わっていただきました。その過程で外国文化の理解はもちろん、日本や島根県の文化や魅力についても再認識していただいたことと思います。

参加者のみなさんがこのプログラムを通して得られた国際感覚を今後の活動に生かし、新たな北東アジア地域のネットワークづくりの担い手となり、リーダーシップを発揮していただけることを期待しています。

2014年2月

島根県環境生活部文化国際課長

若 槻 真 治



2013 北東アジア交流の翼inしまね CONTENTS

●事業概要	4
●参加地域・学校の概要	6
●思い出のアルバム	7
●意見交換会での各国報告	10
テーマ：福祉（高齢者福祉）	
●参加者感想	
[日 本]	11
島根県（植田菜月／鎌田哲成／福原陽子／馬庭千尋）	
[中 国]	15
寧夏回族自治区（張寧／周鵬飛／王曼）	
吉林省（汪婷婷／孫儀琳／曲桐昕）	
[韓 国]	21
威徳大学校（イ・スルギ／キム・キョンミ／チョン・ウネ）	
東国大学校（キム・ソヒ／キム・ソラ）	
[ロシア]	26
沿海地方（シェラヤ・アンナ／アントシューク・アンドレイ／ リコニフ・イワン）	
海洋国立大学（バディコヴァ・イリーナ／ワラ・ガリーナ）	
●ホストファミリーからひとこと	31
●参加者アンケート（抜粋）	32

事業概要

●趣 旨

北東アジア地域の青年たちが島根県でテーマに基づいた視察や交流を行い、各地域の相互理解を深め、北東アジア地域の新しいネットワークづくりを行う。

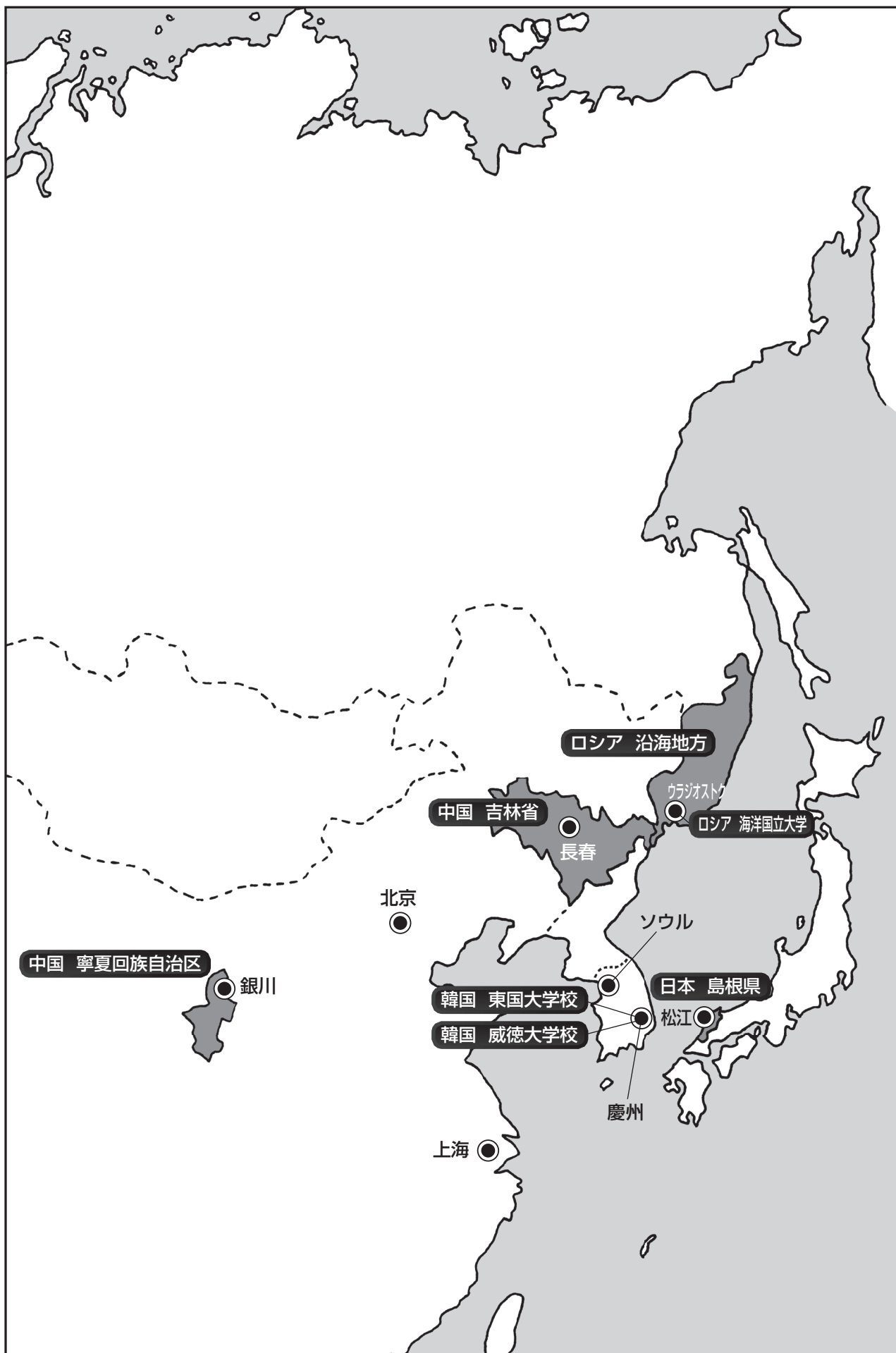
●参加人数

地 域		男	女	計	その他
中 国	寧夏回族自治区	2	2	4	うち 1 名随行者
	吉林省	1	3	4	うち 1 名随行者
韓 国	威徳大学校	0	3	3	
	東国大学校	0	2	2	
ロシア	沿海地方	2	1	3	
	海洋国立大学	0	2	2	
日 本	島根県	1	3	4	
計		6	16	22	

●プログラム日程

	月日		内 容	会 場
1	8/2 (金)	午後	参加青年集合（プログラム開始）	島根県民会館（松江市）
			歓迎セレモニー	
			自己紹介・島根県紹介・プログラム説明	
			入館オリエンテーション	しまね国際センター（松江市）
			交流活動	
				しまね国際センター 泊（松江市）
2	8/3 (土)	午前	ホームステイオリエンテーション	しまね国際センター（松江市）
		午後	ホームステイ歓迎交流会	サンラポーむらくも（松江市）
			ホームステイ（外国人参加者）	
3	8/4 (日)	終日	ホームステイ（外国人参加者）	
4	8/5 (月)	午前	視察（高齢者介護施設）	あっとホームゆりさわ（松江市）
		午後	文化体験（和太鼓）	仁多乃炎太鼓（奥出雲町）
				キララコテージ 泊（出雲市）
5	8/6 (火)	午前	意見交換会準備（各国状況まとめ・発表）	しまね国際センター（松江市）
		午後	意見交換会	
			夕食会等準備（調理・会場設営等）	
			お別れ夕食会	
				しまね国際センター 泊（松江市）
6	8/7 (水)	午前	解散（プログラム終了）	

*8/3（土）午後～8/4（日）日本青年はフリーです



参加地域・ 学校の 概要

■ 中 国

寧夏回族自治区

面積：66,400km² 人口：647万人 (2012年)
区都：銀川市 (人口：204.63万人)
島根県との友好提携日 (友好提携)：1993年10月6日

吉林省

面積：187,400km² 人口：2,750.4万人 (2012年)
省都：長春市 (人口：756.9万人)
島根県との友好提携日 (友好交流に関する覚書)：1994年6月13日

■ ロシア

沿海地方

面積：164,673km² 人口：194.7万人 (2013年)
地方政府所在地：ウラジオストク市 (人口：62.5万人)
島根県との友好提携日 (友好交流に関する覚書)：1991年10月24日

海洋国立大学

所在地：ロシア連邦沿海地方ウラジオストク市
創立年：1890年 学生数：約5,000人以上
学部等：12学部
島根県立大学との協定締結日：2010年8月27日

■ 韓 国

威徳大学校

所在地：慶尚北道慶州市
創立年：1996年 学生数：約3,000人
学部等：4系列 23学科

東国大学校

所在地：慶尚北道慶州市
創立年：1906年 学生数：約8,000人
学部等：10系列

■ 日 本

島根県

面積：6,707km²
人口：70.28万人 (2013年)
県庁所在地：松江市 (人口：20.71万人)



2013思い出のアルバム

【テーマ】福祉（高齢者福祉）

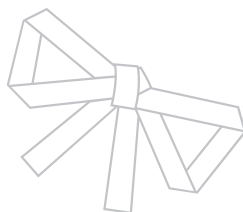
6月15日
土

7月13・27日
土 土



■日本青年による事前研修

8月2日
金



■歓迎セレモニー

■自己紹介・島根県紹介・交流活動



8 | **3**
土

■ ホームステイ
歓迎交流会



8 | **4**
日

■ ホームステイ



8 | **5**
月

■ 高齢者介護施設視察



■ 和太鼓体験



8
6
火

■意見交換会



■お別れ夕食会



8
7
水

■帰国

9
28
土

■日本青年事後研修



12
22
日

■活動報告会





各国からの報告

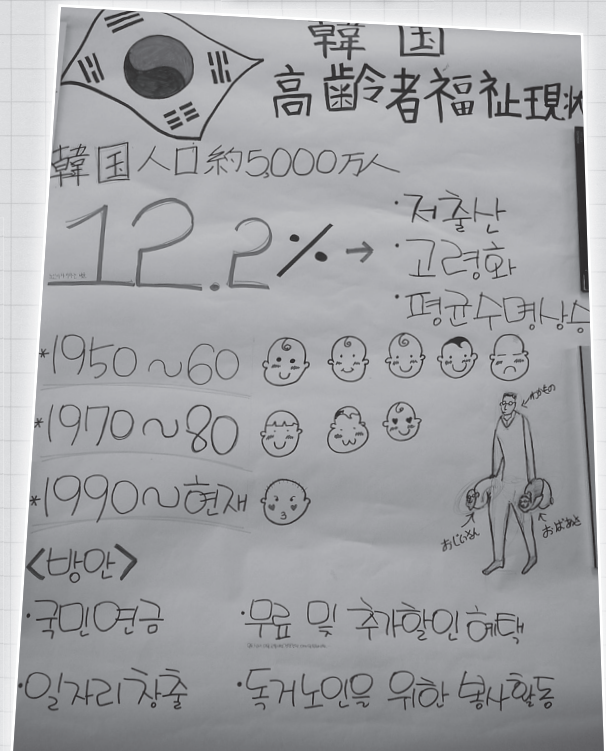
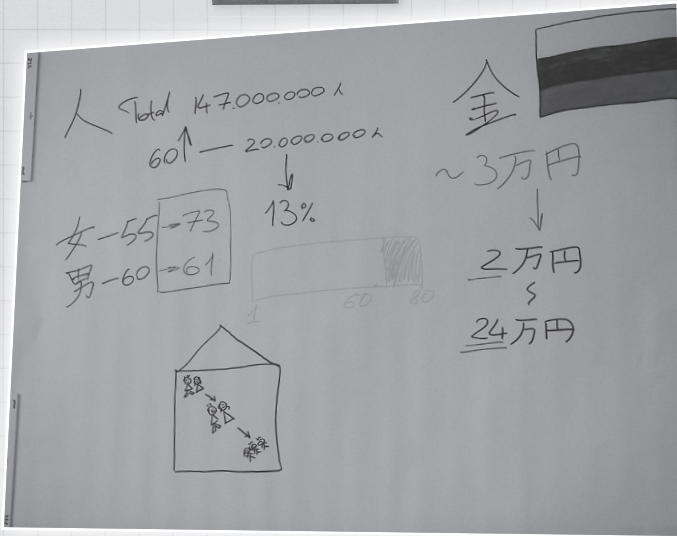
テーマ：福祉(高齢者福祉)

韓国

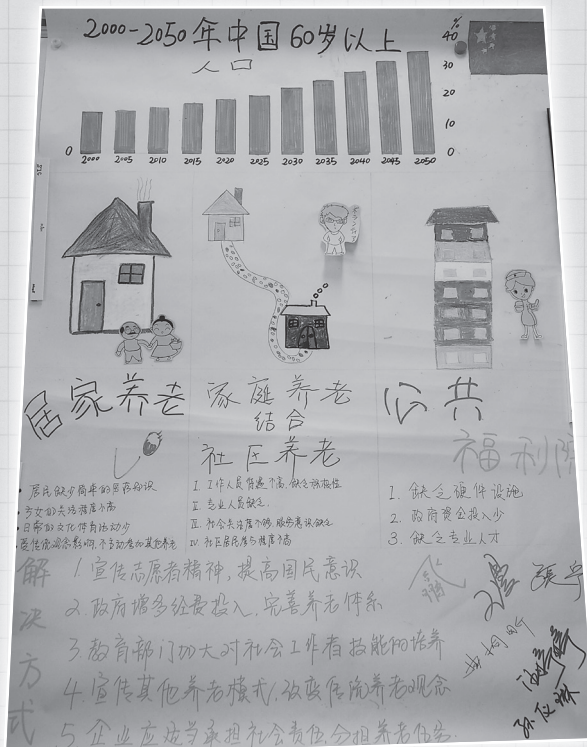
8月6日(火)

各国の状況をまとめて発表しました。

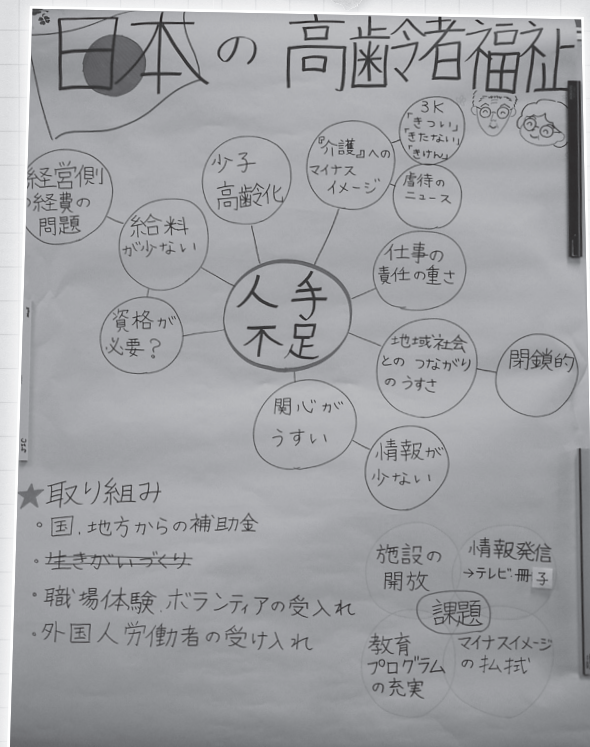
ロシア



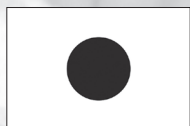
中国



日本



参加者感想



Japan 日本

「北東アジア交流の翼 in しまね」に参加して



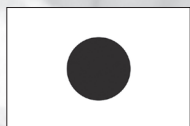
島根県 植田 菜月

私は以前留学した際、現地の方々に親切にもらった経験から、私も海外から日本に来る方に何か手助けをしてあげたいという思いで今回初めて「北東アジア交流の翼 in しまね」に参加を決めました。

中国、韓国、ロシアからの参加青年との交流は始め、言葉の壁によって、コミュニケーションを取るのに不便を感じることもありましたが、様々な活動を通し、一つのことに一緒に取り組むことで言葉を越えた連帯感が生まれたと思います。その中で私が特に印象に残った活動の一つが和太鼓体験です。私は子どもの頃から和太鼓を習っていたため、青年たちが和太鼓にどのような反応を示してくれるのかとても楽しみにしていました。和太鼓体験後、青年たちの彼らの国にも来て演奏してほしいという言葉と喜んでくれている姿を見て、本当に嬉しく思いました。私たちにとっては普段は何気ない日本の文化であっても、外国の方たちの意見を聞くことで、改めてその素晴らしさに気付くことが出来たのと共に、日本と日本文化をととても誇らしく感じました。

また、福祉施設の視察と意見交換会もとても興味深かった活動の1つです。施設の視察で外国青年が日本の福祉施設にとっても興味を持って福祉施設の現状や雇用の問題まで、多くの質問をしていることに驚きました。自国のことではないにも関わらず、日本の福祉の現状に強い興味を示してくれたことに大きな感銘を受けました。また、各国の福祉の状況を知ることで、日本の充実した設備・制度だけではなく、日本における高齢化問題の大きさも強く感じ、他人事ではなく、自分自身に大きく関わる事として捉え、行動していかななくてはならないと思いました。

今回、「北東アジア交流の翼 in しまね」では自分たちで1から作り上げることの大変さと面白さを感じることが出来ました。自己紹介からゲームなどの細かい所まで想定して準備することは大変で、また全体を仕切ったり、司会進行をしたりなど普段なれないことをすることに戸惑いや不安を感じることもありましたが、その分自分たちで作りに上げてきたものが計画通り成功したときの喜びは大きかったです。また、中国、韓国、ロシアの青年たちとの交流を通して、私の国際交流の概念が大きく変わった気がします。今まで外国の方と何かしらの活動をする際は、言語を統一して交流してきました。意思疎通を図るためになくてはならないものだからです。しかし、今回の交流では通訳を介したりもしましたが、普段の会話は日本語や英語、時にはジェスチャーを使いながら様々な方法でコミュニケーションを取り、言葉が通じない中でも互いにわかり合いたいという気持ちをもつことで、心と心で通じ合うことができると体感することが出来ました。今回この交流を通して出会った人々とこのような素晴らしい体験をさせて頂いたことに本当に感謝しています。これからも相手をわかってという気持ちを忘れずに日本そして、島根から世界の人々と交流し続けたいです。



Japan 日本

国際交流の面白さ

私は今回、北東アジア交流の翼に初めて参加させて頂きました。私は国際交流が大好きで、そのようなイベントがあることを聞く度、心を躍らせます。なぜ国際交流が好きなのかというと、文化や言語の壁を越えて繋がりがあえるからです。また、我々の中で知らず知らずのうちに構築された負のイメージが壊れ去る時、とても嬉しく感じます。例として、ニュースなどのメディア媒体を通して感じるその人たちのイメージと、実際に自分たち自身関わってみて分かったその人たち、この違いを身をもって経験した時、優越感にも似たような感情を抱きます。これらが国際交流の魅力なのかなと思います。



島根県 鎌田 哲成

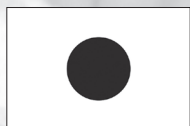
さて、今回のテーマは「福祉」ということで、中国・韓国・ロシアの方々との福祉事情について意見交換をしましたが、日本の福祉制度はある程度発達しているなと思った一方で、様々な問題点があることも分かりました。他の国々の制度や現状に目を向けることで、自国の様子を客観的に見ることができた良い意見交換会になったのではないのでしょうか。加えて、今回は高齢者福祉という共通のテーマを設定しましたが、参加者の言語や文化が違って、それぞれが問題意識をもって現状を打開すべきであるという考えのもと、議論を行い、最後に一体感を味わうことができたのはとても喜ばしいことです。

まとめになりますが、このプログラムを通して学んだことは「繋がり合うことの良さ・大切さ」なのかなと思います。海外青年団たちとの最後の別れをさみしく感じられるのは、それまでで繋がり合うことができていたからだとも言えるでしょう。国際交流の場面だけではなく、プログラム中に訪れた介護施設でも、利用者の方々が地域の人たち、職員の方々、あるいは利用者さん同士が繋がりがあってこそ充実した日々が送れるのではないかと思います。

最後になりましたが、このような「つながりの場」を提供して下さった国際センターの方々をはじめ、お世話になった皆様に心より感謝申し上げます。



参加者感想



Japan 日本

新 鮮！

今年で4回目を迎える、翼。

4年前から、新しく私の生活に根付いた、夏の恒例行事。私は翼（ここ）で今年の私に出逢うために帰って来ます。

今年はスタートから今までと全く状況が違っていました。いつもは、少し年の離れた大学生の中に1人混じって、という感じでしたが、今年は同い年の社会人の女の子と、大学生の女の子と私の3人。この少人数で女の子だけ。何となく違和感と不安を感じていました。しかし、初日から、この2人の意思の強さや決断力、積極性に、ベテランのはずの私が、戸惑ってしまうくらいでした。更に、最後の事前研修で、飛び入り参加をしてくれた、メンバーも、途中から加わって、初めてとは思えないくらい、頼もしく、積極的にリードしてくれました。私が初めて翼に参加した時の事を思うと、信じられないくらい、堂々と落ち着いた様子でした。この中で、今年私はどのようなたち位置で、どんな役目を果たせるのだろうと、正直不安でした。

元々、今までの経験を生かして、アドバイス、フォローするつもりでしたが、3人の姿を見ていたら、‘無理そう…’ ‘例年だとそれはちょっと…’ と心の中で思う事があっても、それは言葉に出て来ませんでした。私も、初心に帰って、何でもとにかくやってみよう！やってみないと分からない！このメンバーなら出来るだろう！と言う気持ちになってきて、ほとんど、3人の考えに任せていました。

一つ、私も積極的になれたのは、今年のテーマが「高齢者福祉」であったこと。私もちょっとした縁と機会から、今までとは全く違う職種の介護の世界に入り、実際経験を重ねる中で、介護の奥深さ、重要性を学び、今までと全く違った見方で介護と言うものと向き合うようになりました。この経験、感動や驚き、実際の現状を少しでも多く同年代の人達に伝え、逆に私の知らない介護の世界を知る為の、貴重な機会を与えて貰ったと思いました。限られた時間の中で全てを伝えることは不可能ですが、自分の経験を他の場で生かせたという事が、嬉しかったです。

翼のプログラム中では、私は今まで、いつも、主に韓国人青年と親しくなることが多く、新しく習得する言語も、韓国語がほとんどでしたが、今年は、今まで諦めて壁を感じていたロシアの青年と、自分でも意外で不思議なくらい、親しくなり、ロシア語も覚え、ロシア人青年との交流がとても印象深く残っています。

また、今年は、歓迎交流会の出し物で友達にスケッチ出場してもらったりと、今までにない、環境、状況、変化がたくさんあり、4回目にしてとても新鮮な気持ちでした。

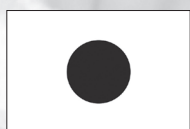
何回続けて参加しても、毎年新しい仲間と新しい雰囲気、環境の中で、新しい自分が生まれて行くことの喜びが、私と翼を繋ぎ止めている一番の接着剤だと思います。

最後に、今年も翼を企画・運営し、参加させて下さった方々、後援の方々、スタッフの方々、プログラムにご協力頂いた地域の方々、そして今年の翼の仲間みんなに、心から、感謝いたします。

ありがとうございました。



島根県 福原 陽子



Japan 日本

当たり前だったけど、 当たり前じゃなかった5日間



島根県 馬庭 千尋

交流の翼プログラムを終えた数日後、私はプログラム中に撮影した写真を見返していました。プログラム中、ずっと一緒に行動するのが当たり前だった外国人青年たちとの写真を見ていると、このメンバーが集まっての「2013年北東アジア交流の翼」というプログラムは、本当に1回きりだったんだなと思いました。

一番の思い出は、外国人青年との会話です。キララ多伎のコテージに泊まった夜、韓国の女の子たちと恋愛や、結婚の話をしました。まるで、いつも友達と話しているように、キャッキヤしながらおしゃべり出来たのは楽しかったです。また、彼女たちがホームステイに行った時の話などを聞きました。その中で、韓国ではお年寄りを日本以上に大事にしているのだと聞きました。また、同じコテージに泊まった、中国の女の子との会話もすごくいい思い出です。彼女との会話は英語でした。しかも、私も彼女も英語はそんなに得意ではありません。普段は、国際交流員の方に通訳してもらいながらしている会話も、コテージでは通訳なしでの会話になります。紙に書きながら、お互いが言いたいことを必死に伝え、あまりにも伝わらないときは、2人で顔を見合わせて笑ったりしました。

そして、プログラム前から企画したり、プログラム中も運営する側で任されたこともたくさんありました。日本青年同士で連絡をとりあって準備したり、しまね国際センターの方にもいろいろ手助けしていただきました。みんなで作り上げた今年の交流の翼は、日本人青年の人数は少ない中だったけど、全員の協力があったのだと思います。みなさん、ありがとうございました。また、今回島根のいろんなところを回らせてもらい、今まで自分が知らなかった島根を再発見できました。外国人青年たちに、島根を知ってもらえたこともうれしく思っています。

外国人青年たちは、自分たちの国に帰ってしまったけど、今はメールや facebook など離れていてもつながるツールはたくさんあります。このプログラムでの出会いをきっかけに彼らとのつながりを大切にしていきたいです。そして、このプログラムを1人でも多くの日本人に知ってもらえるように、自分の体験を伝えていきたいと思っています。

参加者感想



China
中国



寧夏回族自治区

張 寧

日本の旅

7月29日、寧夏から北京に着いた。2日後に、異国の地、日本に到着した。

義務教育を受けた人なら、誰でも日本と中国の複雑な関係が分かっていると思う。いったいどんな気持ちで日本に行ったのか、今でもうまく説明ができない。母国に対する尊敬の気持ち、大学で選ばれて日本へ行くことができることに対する感謝の気持ち、日本をもっと知りたい気持ち...行く前にいろいろ考えた。そして、日本への旅が始まった。

島根にいる間、一番印象に残ったのは福祉施設の見学だった。日本は高齢福祉社会に力を入れており、福祉施設の見学を通じて、日本の高齢者福祉制度が分かり、日本の老人ホームにいろいろなサービスがあることが分かった。また、個人の状況によって、いろんなサービスを選べるのが素晴らしいかった。

日本の高齢者福祉施設のサービスの種類により、高齢者に対する福祉制度や介護の特徴が大体分かった。プロの介護士がいるということから、日本政府が高齢者福祉にとっても力を入れていることが分かった。また、高齢者介護の理念もすごく重視していることが分かった。そして、中国の老人ホームと福祉制度を思い出した。我々は日本の良いところを勉強すべきだと思う。いろんなサービスがあり、身体的、精神的、全面的にサービスを提供することが素晴らしいことだと思う。生活の質を高めて、有意義な晩年を送ることができる。それによって、高齢化問題が引き起こす問題等を解決していく、中国にも良い手本になると思う。

もう1つはホームステイだった。滞在先のお母さんは北京出身で、すごく交流しやすかった。お父さんは日本人だが、とても優しくかった。ホームステイの時、本場の日本文化を味わった。温泉に入り、寿司や刺身を食べ、中国の唐辛子よりも辛いわさびを食べた。子どもに対する教育方法の違いも分かった。

そのほか、皆で和太鼓の体験をし、海辺のコテージに泊まり、BBQ もした。日本の旅はこれで終わりを迎えてきた。今回、日本に来られて本当に良かった。また、この数日間で韓国の1人の女の子と仲良くなり、これも1つの成果だなあと思う。





China 中国



寧夏回族自治区

周 鵬 飛

交流の翼報告書

日本は島国。本州・北海道・九州・四国など4つの大きな島と6,900ぐらいの小さな島から成る国である。日本国の意味は“日出之国”である。

また、日本はアジア大陸の東側、太平洋の西北部に位置している。面積は37.79万平方キロメートルで、周囲を太平洋、日本海、東シナ海、フィリピン海、オホーツク海などの海洋に囲まれている。ロシア、北朝鮮、台湾、韓国、中国、フィリピン、アメリカと排他的経済水域が接していて、千島寒流と日本暖流が合流してできた北海道の漁場は世界でも有名である。

桜は日本の国花で、春になると桜が咲き始め、とてもきれいなようだ。日本の70%が山地で火山が多い。最も有名なのは富士山。高さは3,376メートルで、日本の一番高い山で、日本の象徴でもある。日本には地震が多くて、毎年1000回以上の地震があるそうだ。世界では最も地震が多い国で、世界の10%の地震が日本及び日本の周辺に起こるらしい。

これらは、日本に行く前に私が調べた資料だ。

日本に行った時は、桜の季節ではなく、地震もなかった。日本人が喋らなかったら、中国人とあまり変わらないことも初めて分かった。今の日本人は平和が大好きで、日本に来て日本人の優しさがよく分かった。中国の歴史教科書に書いてある歴史も過去の事で、これからもずっと平和であって欲しい。

島根の旅で、和太鼓などの体験を通し、日本の文化や風習が少し分かり、とても面白かった。

ホームステイもすごく楽しかった。ホームステイ先の家族が皆優しく、温泉にも入った。温泉はすごく気持ちがよくて、体にいいという話も教えてもらった。寿司や刺身は食べ慣れなかったけど、美味しかった。

このような日本に来るチャンスがあり、感謝の気持ちがいっぱいだ。海辺のコテージに泊まってBBQをしたり、5日間の旅はあっという間に終わった。一生忘れられない思い出だ。残念なのは富士山と桜との縁はなかった。





China

中国



寧夏回族自治区

王 曼

日本への学習旅行

ドキドキしながら、日本への飛行機に乗った。日本語が分からない、行ったこともない、どうすればいいか全然わからなかった。色々想像しながら不安だった。しかし、それからの旅は不安を感じる時間もなかった。日本人が親切に招待してくれて、たくさんの体験ができ、ビクビクする暇もなかった。

日本に着いた時、すべてが新鮮で面白かった。外見から見ると、日本人と中国人の顔はとても似ているが、話している言葉は日本語で、日本にいるという実感がわいてきた。女の子はみんな福原愛さんみたいに可愛くて、男の子は中国人と比べると体格がそんなに大きくなかった。

ホームステイ先は出雲市だった。ホームステイ先の日本人家族はとても優しかった。日本の着物はとても美しくて、着物を着ていた女性も美しい。中国にもたくさんの民族があり、地域や風習によって民族衣装も色々な様式がある。私は運がよくて、京都では偶然に舞子さんに出会って、優雅な歩き、真白な顔、美しさに驚いた。

また、島根では老人ホームにも訪問した。日本の高齢者福祉施設について、どんなサービスがあるかや、介護の特徴、プロの介護士がいること、政府は高齢福祉を重視していることが分かった。日本政府から一般人までの高齢者に対する意識、思いやりなど、私たちはとても勉強になった。中国はこれからもっと高齢者に関心を持つべきだと思う。

温泉や寿司、たくさんの体験をして、生活スタイルが違っていても、幸せはみんな一緒。

人生にとってとても貴重なチャンスをいただいて、みなさんに感謝の気持ちがいっぱいです。





China 中国



吉林省 汪 婷 婷

忘れ難い島根の日々

島根の初日、高速バスから降りた途端、ずっとお待ちくださった小寺さんと李琨さんに会いました。私たちのスーツケースを手に取り、昼食の場所にご案内くださったお2人を通じて、島根県民の親切さを肌で感じました。

交流活動の主催者側は歓迎交流会を用意してくださいました。AKIさんと島根の若者たちが心をこめていろいろな交流活動を企画・実施してくれました。それにより、中日韓4カ国の青年たちは短時間でお互いに知り、よく交流することができました。しまね国際センターのスタッフの方の仕事への精神とセンター施設の綺麗さに深い印象を受けました。

4名の日本青年参加者は全行程において各国の若者たちの心と心の距離を縮めるように、一生懸命に頑張っていました。彼らは各国参加者たちの「潤滑油」のような存在です。それだけでなく、翌日の行事をスムーズに展開するために、毎晩夜更かしをされていました。その私心ないボランティア精神にとっても感動しました。彼らの努力は同交流事業の成功を収めた大きな一因でしょう。ここで心より感謝したいと思います。

私を受け入れてくださったホストファミリーは板垣さんご夫婦でした。最初の頃、言葉のことをずっと心配していました。しかし、お宅に行ってみたら、その心配が全く余計なことだと分かりました。お2人は中国語がとてもお上手で、そして中国の文化にとってもお詳しいのです。島根の名所旧跡を見学し、日本の文化を紹介していただいたりしました。ご実家にお邪魔し、異なった生活環境と食生活を体験しました。3人一緒に川辺に行って花火大会を観賞したり、一緒に料理を作ったり、スーパーマーケットに行ってお買い物をしたりして、ありのままの日本の日常生活を体験することができました。板垣さんご家族三世代の皆さま方から、至れり尽くせりのおもてなしやご高配を賜り、一生忘れ難くて、涙が出るほど感動しました。感謝の気持ちでいっぱいです。板垣さんご一家をご招待することを約束しました。ぜひご都合がよい時に中国にいらっしゃって、必ずご案内させて頂きたいと思っています。

5日間の日程には高齢者介護施設の視察があります。現場の視察により、施設の運営を学んだと同時に、日本の福祉施設の先進的な設備と施設内部の綺麗さに感心しました。特に、この施設の所有者でいらっしゃる百合澤さんからの話を聞き、彼の祖国への厚い愛情を感じて、高く賛美しようと思いました。また、福祉をテーマに参加青年との意見交換会を行いました。各国の福祉の現状と問題を知ることができ、これからいかに高齢化に対処するのか、いかに高齢者に快適な生活環境を提供するのか、私たちはもう一度考えさせられました。滞在中、和太鼓体験をしました。練習をした時、一緒に太鼓をたたき、チームワークの重要性を新たに感じたとともに、大和民族の強い団結力と求心力を感じました。

最後になりました。5日間の島根の訪問は充実かつ快適でした。主催者のご高配のもとで、交流活動が順調に進み、心より感謝します。そして、ホストファミリーのご配慮、国際交流員李琨さんの通訳、雲憲輝さんのご案内、日本青年たちのご協力に改めて深くお礼申しあげます！日本語ができないため、皆さんと活発に交流出来なかったことにお詫び申し上げます。

参加者感想



China 中国



吉林省 孫儀琳

「北東アジア交流の翼 in しまね」の参加感想

吉林省は1994年から日本島根県と友好交流関係が結ばれて以来、ハイレベルの相互訪問の勢いに乗って、政府から民間レベルまで、経済面から社会面まで幅広い分野にわたり、交流と協力を行ってきました。

北東アジア各国の青少年の友好交流を促進するために、島根県は2002年から「北東アジア交流の翼 in しまね」の交流活動を主催し、中国・ロシア・韓国・モンゴル等の青年を島根に招き、地元の日本人青年のご案内で県内において交流を行ってきました。

この度、中国参加者の一員として島根県での5日間の交流活動に参加できてとても光栄に思います。初めて日本人や日本社会と接触して、本当に素晴らしかったです。

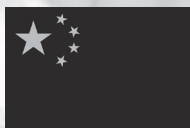
主催側は私たち参加者のためにわざわざ歓迎の式を催し、また交流活動の主旨と関連情報を紹介してくださいました。その場を通して、各国の若者たちはお互いに理解と友情を深めることができました。宿泊先であるしまね国際センターに向かう途中で、車から両側の景色を見たところ、日本の住宅が軒を連ねて建っており、道路がとてもきれいで、交通が渋滞なくスムーズな流れになっていることに気づきました。それはたぶん日本人の真剣さと生活の営み方を表しているのではないかと思います。

今回の交流事業の日程はとても充実していました。私たちは歓迎交流会に参加し、高齢者介護施設を見学し、2日間のホームステイや日本文化（和太鼓）を体験し、海辺にあるキララコテージに1泊泊まり、バーベキューを楽しみました。そのほか、交流会の時、高齢者介護と福祉をめぐる、各国の若者といろいろと意見交換を交わしました。お別れ夕食会では、各国参加者の手料理を味わうことができました。

最も深く印象に残っているのはホストファミリーと一緒に過ごした、その2日間でした。受け入れてくださった島根県文化国際課長若槻様と奥様はお2人ともとても優しい人でした。炎天下にもかかわらず、私を連れて島根の有名な観光スポットに行ってください、よく知られている出雲そばを味わったり、買い物をしたりできました。（日本語ができない私にとっては）交流時に多少問題がありましたが、双方とも出来るだけその困難を乗り越えようとしていました。お2人と一緒に過ごした日々は今でも目に焼き付いており、とても印象的です。

この度の交流活動を通じて、日本のことを更に知ることができました。そして、中国寧夏、ロシア、韓国と日本の若者たちと友達になり、一緒に忘れ難い日々を楽しむことができました。チャンスがあれば、皆さんと再会する日を楽しみにしております。

参加者感想



China

中国

感 想

2013「北東アジア交流の翼 in しまね」に参加できて、とても嬉しくて、光栄に思います。この交流活動を通じて、北東アジア各国の若者とよくコミュニケーションし、違った国の違った文化（異文化）を知ることができました。

ホストファミリーとの交流もうまくできました。優しいご家族に数多くの地元の観光スポットへご案内頂きました。数日間のホームステイにもかかわらず、日本人の親切さとおもてなしの心を肌で感じました。滞在中のプログラムでは、島根県の高齢者介護施設も見学し、日本の福祉制度に触れて、ある程度の認識を得て、特に日本の福祉関連施設の完備さと健全さに本当に驚きました。

結びに、私たちに他国の青年と交流するチャンスを与えてくださった島根県に対して、心よりお礼申し上げます。本当に実り多い成果を収めました。もしチャンスがあれば、また日本と島根に行きたいと思います。その時、日本の皆さんと一緒に交流しましょう！



吉林省 曲 桐 昕



参加者感想



Korea 韓国

感想

松江到着後、歓迎会がありました。その後は緊張した空気を和ませるためにゲームをしました。一層緊張してしまいました。それでもゲームでみんなのニックネームが覚えられたので良かったと思います。

宿泊地まで移動するバスの中で見た街の風景はとてもきれいでした。バスを降りた所は小川が流れていて静かな日本らしい町でした。日本の夏は暑いと分かっていましたが、シャワーを浴びてもすぐ汗が出て、大変でした。

次の日はホームステイのための準備をしました。ホームステイの家族に会うために歓迎会場に入る前まで踊りの練習をしました。入ったらすぐ出番かなと思っていたら、ご飯を食べてから披露すると言われたので、緊張してご飯が喉を通りませんでした。

会場で会ったホストファミリーのお父さんは最初は少しだけ怖そうに見えました。お父さんの車に乗って家の近くまで来た時の風景は今でも忘れられません。広い平野と畑仕事をしているおじいさん、静かな町。私の実家も田舎にあって静かで広いですが、ここと雰囲気は結構違います。

家に着いたらお母さんとお祖母さんが歓迎してくださいました。私は床の間の大きな部屋を使いました。お茶を飲みながら話しをしました。この家庭は今までたくさんホームステイを受け入れていたことがわかりました。家は広く、心地よく綺麗でした。学校で習った、日本の家庭にあるものが実際見られて本当に良かったです。

ちょうどその日は町でバーベキューパーティがある日で、私も参加しました。子どもからおじいさん・おばあさんまで集まって一緒にバーベキューをしたりスイカ割りをしたりビンゴゲームをしたりして、1人では経験できないいい思い出を作りました。

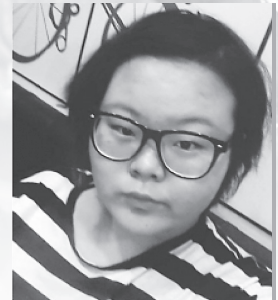
次の日はお父さんからどこに行きたいか声をかけられましたが、暑いので家にいました。お昼は有名な蕎麦屋でご飯を食べてお母さんと買い物に出かけました。家でたこ焼きや揚げ物も作ってもらいました。キュウリの料理が本当においしかったです。私は朝はパンではなくお米を食べると言ったら、最後の日の朝はお米のご飯が出ました。感動でした。

ホームステイが終わって、福祉施設に向かいました。その施設の理事長の話を聞いて本当に素晴らしい方だと思いました。その後は太鼓を叩きました。ドラムを叩くのとは違う感じでした。腕を高く上げなければいけなかったのも、力も必要だったし腕も痛かったです。

キララのバーベキューパーティで、ある程度お肉を食べた後は手前の遊び場で遊び、後片付けをしようと席に戻りました。中には自分が食べた物の後片付けをしない人もいましたが、私たちは最後まで片付けました。

食後、ウネさんのホストファミリーのお母さんがいらっしゃったのでウネさんを残して海に行きました。暗くて遠い道を走ってウネさんに会いに来てくれるなんてすごいなと思いました。楽しく遊んだ海で、私はメガネを失くしてしまいました。

次の日は、各国の料理を作りましたが、韓国チームはキムチチヂミ、キムチ炒め、チャップチェ、ネギチヂミを作りました。中でもキムチ炒めが一番人気でした。後片付けをした後、仲良くなった中国の青年達と交流しました。言葉はうまく通じませんでしたが、ボディラングージと簡単な英語でコミュニケーションを取りました。いろいろ苦労しましたが、苦労した分だけ思い出もたくさんできました。

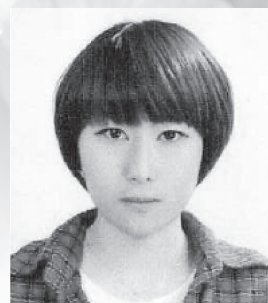


威徳大学校

イ・スルギ



Korea 韓国



威徳大学校

キム・キョンミ

交流の翼 in 「しまね」

最初はこの交流に参加するかどうか迷いました。なぜかというと、日本人だけでなく中国人やロシア人と交流するのは初めてで、ぎこちなさや恥ずかしさがあるだろうと思ったからです。でも、行くと決めたからには頑張ろうと思いました。大阪を経由して飛行機で島根まで行く約5時間の間、胸は高まりました。

ところが、いざ会場に着いて皆に会ったら言葉がうまく通じなかったので、楽しさよりどうすればいいか心配になりました。そういうぎこちない1日が終わり、次の日はホームステイをしました。私にとっては3回目のホームステイでしたが、いままでで一番楽しく雰囲気も良かったです。2泊3日が短く感じられるほど、とてもいい経験でした。

それから本格的な交流が始まりました。まだ緊張が残っている状態で和太鼓を体験に出発！体で感じてお互い向かい合って笑うことができました。英語が上手ではない私は日本語を使うしかなく、ロシアの青年達とはある程度コミュニケーションができましたが、中国の青年達とはコミュニケーションができず残念でした。ですが、仲良くなったのは中国の3人です。私はこれを機に言語の壁があっても友達になれるんだということを知りました。

今回の交流のテーマだった「福祉」については、韓国より遅れているのではないかと考えていた中国の素晴らしい福祉環境に感心し、いろいろ学ぶところがあると思いました。中国は発展の可能性が高い国だと改めて感じました。日本に行く前に私は各国の福祉について調査をしていましたが、ロシアの福祉の現状に関する資料は見当たりませんでした。今回の交流を通じてロシアの福祉はもちろん、ロシアの国民性についても理解できて良かったです。

韓国に帰って思ったのは、各国のいいところを融合して韓国の福祉に反映させるためには、私を含めた多くの人の努力や実践が必要だということです。福祉について何の興味もなかった私に「福祉」の細かいところまで考えてみる機会を与えてくれた「交流の翼 in しまね」に感謝します。



参加者感想



Korea 韓国

感 想

私がこの交流事業に参加申し込みをしたのは、現在日本語文化学科で日本について勉強していますが、勉強だけでなく直接日本で様々な体験をしてみたいという気持ちがあり、また他の国からも参加すると聞いたからです。

島根県に到着するとまず歓迎会があり、国ごとに挨拶しゲームをしながら仲良くなる時間がありました。次の日はホストファミリーと会いました。その場で国ごとに出し物を披露しました。練習時間が足りなかったですが、楽しく披露しました。

私のホストファミリーはとても印象の良い方々でした。ホストファミリーは私のために島根の有名な場所を案内してくださったり、茶道を教えてくださいました。また、お母さんのお友達にも会って有意義な時間を過ごしました。食事は和食だけでなくいろいろな食べ物が用意してあって本当にありがたい気持ちでした。去年他の地域でホームステイをしたことがありますが、今回がもっと有意義で楽しかったです。ホストファミリーに感謝の挨拶をしたいし、もう一度会いたいです。

韓国では最近になって発展し始めた高齢者福祉施設ですが、日本ではお年寄りのための施設や福祉士のためのシステムが整っているのを見て、「韓国もこんなふうにしたらいいかも」と思いました。その後和太鼓を叩きました。いろいろな種類の太鼓を叩く体験は本当に興味深かったです。韓国の伝統の太鼓とは似て非なる和太鼓を叩いてみるのは本当にいい経験でした。

最終日は、各国の高齢者福祉施設について発表しました。国ごとに学ぶところが聞けて良かったし、韓国と他の国を比較する時間になって良かったです。夕方になって各国を代表する料理を作って食べました。写真で見ただけだった料理を実際作る過程を見て食べることができて面白かったです。

この5泊6日間の交流に参加して得ようとしたもの以上のものが得られて本当に良かったです。ありがとうございました。



威徳大学校

チョン・ウネ





Korea 韓国



東国大学校

キム・ソラ

一期一会

「北東アジア交流の翼 in しまね」への参加を申し込んでから島根に出発するまで、私は大きな期待とときめきに溢れていました。それが昨日のことのようなのに、今5泊6日間の交流を終えて感想文を書いていて、いろいろ懐かしい思い出が浮かぶと同時に名残惜しい気もします。

私は島根県についてよく知らなかったので、不慣れな所で見知らぬ人に会って交流することに緊張も感じました。しかし、交流の初日、各国の学生の前で自己紹介をしゲームをしているうちに、緊張は解かれだんだん楽しめるようになりました。国際センターで各国の言葉を習ったのもよかったし、様々なゲームをしながら他の参加者と交流する良い時間を過ごしました。

2日目と3日目のホームステイも良い経験になりました。ホストファミリーとの歓迎交流会で国ごとに出し物を披露する時間がありましたが、これもいい思い出です。初めは皆の前で出し物を披露しなければならないというので、恥ずかしいと思いましたが、いざやってみたら楽しかったです。私を受け入れてくれた家族はとて素晴らしい方で、おかげさまで日本の家庭料理も食べられたし、伝統文化体験もできました。とても感謝しています。日本の家庭や文化について学べる時間だったと思います。

そして、高齢者福祉施設を訪れたのもいい経験になりました。実は福祉施設や高齢者福祉にあまり興味がありませんでしたが、これを機に興味ができました。充実した施設に感激する一方で、施設で過ごす方々は寂しいのではないかと思います。また、施設で働こうとする人が少ない現状に残念な気持ちになりました。話を聞いて、もしチャンスがあれば韓国の福祉施設に行って、少しでも助けられることがあったら力になりたいと思いました。

各国の高齢者福祉制度について発表する時間で多くのことを感じ学びました。発表を準備しながら韓国の福祉制度について少しわかるようになったし、関心を持つようになった良い機会だったと思います。韓国だけでなく他の国の発表もとても興味深かったです。

ただ、交流中に1つだけ残念だったことがあります。もっと多くの青年達と交流ができなかったことです。日本語ができない青年もいたのでたくさん話ができず、本当に残念でした。それで英語や中国語も勉強しておけばよかったなと思いました。

タイトルの「一期一会」は日本語の中で一番好きな言葉です。一期一会の意味のように一生に一度だけの絆を今回の交流で結んだようで嬉しいです。交流から得た大切な絆と楽しかった思い出を忘れません。

参加者感想



Korea 韓国



東国大学校

キム・ソヒ

ありがとう、島根県

卒業を控えて良い思い出を作りたいかったので、友達と一緒に「北東アジア交流の翼 in しまね」に申し込みました。

島根に到着してすぐ中国・ロシア・日本の青年達との交流が始まりましたが、会ったばかりだったためか、多少ぎこちない感じでした。夕食を食べながらみんなといろいろな話をしましたが、特に同じく韓国から来た威徳大学の学生達が愉快的な子ばかりで楽しかったです。

泊まった部屋はクーラーもよく効いていて特定の所ではインターネットも使えたので良かったです。ルームメイトは中国吉林省から来た青年で日本語を習ったことがないというから、世界共通語の英語で会話をしました。いろいろ配慮してもらったり親切にってもらったりしたので、中国人に関する固定観念がいくらか破られました。

次の日はホストファミリーに会う日で、「ワンダーガールズ」の「Nobody」という曲のダンスを準備しました。準備時間が短かったためか皆右往左往でしたが、それでも終わったことにみんな満足している様子でした。

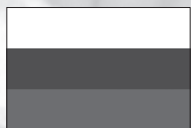
ホームステイはとても良かったです。その時ちょうど花火大会があったので、生まれて初めて浴衣を着て花火を見に行き、花火を見ながら夕食の弁当を食べました。動物やキャラクター、花のような花火にみんな感動しうっとりとしていました。体は疲れていましたが、とても良かったです。次の日は海に行って船に乗り、海の中と洞窟を見ました。水がとても透き通っていて海の底まで見えました。夜は寿司と刺身を食べました。名残惜しく次の朝、ホストファミリーとお別れをしました。

訪問した介護施設では、施設も綺麗できめ細かなところまで介護される人への気配りが出来ていました。日本は福祉において韓国の3倍ぐらい進んでいると聞きましたが、韓国も先進国入りしましたので、福祉問題にもっと関心を寄せるべきではないかと思います。最近韓国では年金問題が話題になっていますが、介護施設もお金がなければ入れないので、年金問題の解決が必要だと思います。

夜泊まった所は窓から海が見渡せるととてもいい所でした。花より団子という言葉のようにまずは食事です。良いバーベキュー施設で、美味しい肉を食べながら蚊にも私の大切な血を分けました。コテージの中にはサウナとあったので、シャワーの後に威徳大学のキョンミと一緒に入って疲れを取りました。ロシアの青年達は水着を用意してきて海水浴を楽しみました。こんないい所でいい人達と思い出をたくさん作ることができてとても幸せな1日でした。

翌日は、各国の福祉施設について話し合った後、各国の代表的な料理を披露しました。韓国は「チャプチェ」と「ネギチヂミ」と「キムチチヂミ」を作りました。いろいろ問題はありましたが、それでも結構本場の味に近い料理が出来上がりました。意外だったのは残ったキムチと卵を炒めた物を皆が一番おいしいと言ってくれたことです。他の国の料理も美味しかったです。食事の後は中国の青年達と飲物を買いにコンビニに行きました。その子達、とても面白い人でした。最後の日になってはじめて仲良くなったのが残念でした。もっと早く仲良くなればよかったなと思いましたが、彼らは交通便のために1日早く出発しないといけなかったもので、さようならをしました。威徳大学の学生達とも別れをし、ソラと私は2人だけの旅行をしに米子駅に向かいました。

このような良いプログラムに参加できて良かったと思います。皆は同じアジア圏の国に住んでいて似ているようですが、お互いの文化を学び共有し親しくなるチャンスはあまりありません。このようなチャンスに恵まれて嬉しかったです。みんなとても優しく、また会いに行きたいです。機会があればまた島根に行きます。



Russia ロシア

国際プログラムでの 参加の結果



沿海地方
シェラヤ・アンナ

8月に「2013年交流の翼 in しまね」プログラムに参加させていただきまして嬉しく思います。このプログラムでは日本、ロシア、中国、韓国4ヶ国の若者が参加しました。

私たちは、高齢者福祉という非常に重要なテーマに関して協議しました。そして、「アミーゴ島根」が運営する老人ホームを視察し、どうやってお年寄りのお世話をするかということを経験することができました。日本の若者もボランティア活動に積極的に参加し、お年寄り向けのイベントやプログラムを実施することが分かりました。ロシアでは若者がお年寄りの世話の活動にあまり関わっていません。

4ヶ国の参加者は高齢者福祉に関する資料を持ってきて、紹介するための事前の準備をしました。

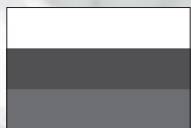
グラフや絵を見ながら、それぞれの国の発表を聞きました。他の国の様子を聞いて、自分の国のやり方と比較することができました。とても有意義でした。

ホームステイもとても気に入りました。ホストファミリーは親切でした。松江市内と松江周辺の魅力的な観光地に連れて行ってくれました。お互いに面白いコミュニケーションができました。プログラムが終わってから、ホストファミリーと時々連絡を取りたいと思います。

このプログラムに参加させていただきまして、本当にありがとうございます！素晴らしい経験と新しい友達ができました。プログラムの一番大事な結果は、私が日本語を一所懸命勉強する決意をしたことです！



参加者感想



Russia ロシア

「友好交流の翼 in しまね-2013」



沿海地方
アントシューク・アンドレイ

今年参加した「交流の翼 in しまね」プログラムは、短くても、印象的で面白い旅でした。そのプログラムは素晴らしいので、期間がもっと長ければいいなと思いました。

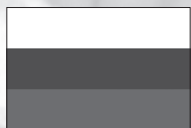
島根県に初めて来ました。毎日新しく、面白いイベントで一杯でした。1分間でも寂しく感じることはありませんでした。色々な観光地に行ったり、和太鼓を初めて体験したりしました。ホストファミリーと松江市の見学、散歩、ショッピングを行い、とても楽しい時間を過ごせました。

高齢者福祉をテーマにした協議はとても知識的でした。現地の老人ホームの訪問は勉強になりました。そして、それぞれの国の高齢者福祉に関する状況、行政・民間の対策を紹介する発表を聞いたり、意見交換を行ったりすることによってロシアの老人福祉・自分の将来について考えさせられました。

このプログラムを主催していただいた方々に感謝を表します。それぞれの国の参加者を募集し、宿泊、食事、エンターテインメントのプログラムをアレンジすることは大変な仕事だと思います。

アジア太平洋地域の国の友好と文化交流を深めるこのプログラムが今後とも成功するように祈っています。島根県、しまね国際センターをはじめ、すべての関係の皆さまに、どうもありがとうございました！





Russia ロシア



My wings in Shimane

2013年初めて日本にきました。島根県、松江市、夏、太陽、セミの声。

沿海地方

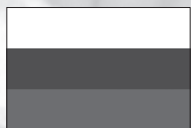
7月31日の朝、JR 松江で迎えられて、国際センターへ。 リニコフ・イワン
すぐに自転車を借りて海に行きました。思った以上に（17
キロメートルほど）遠かった印象を受けました。8月2日「2013北東アジア交流の
翼 in しまね」というプログラムが始まりました。ウラジオストクからきた5人のロ
シア人と会ってとてもうれしかったです。

ホストファミリーの前で小さい発表として歌を歌いました。楽しかったです。ホス
トファミリーと過ごした時間は忘れられないです。2日間しか滞在しなかったけど、
その家族が大好きになりました。車でどこへでも行きました。出雲大社で私が一番驚
いたのは、山の頂上を囲んでいる深い霧です。山があまり高くなくて、さらに霧が雲
とよく似ていたから空が地面にとても近いという感じがしました。晩ご飯を食べなが
らゆっくり話しました。次の日は車で広島まで行きました。この日、日本は道路の国
だと思いました。帰り道で花火を見ることができました。1時間ほど歩道に座って暗
くなった空のあちこちに現れるすばらしい“火の花”を眺めていました。どんなにす
ごいカメラを持っても、花火の美しさは絶対伝えられないと思います。最も伝え
にくい特徴は花火の音です。非常に大きい音が出たら、みんな“わあーっ”と声を出
します。無意識にそれほど大きな音を待っています。その音が耳に届くか届かないか
のうちに大勢の人が拍手する場面は少なくなかったです。

ホストマザーのみやこさんは書道を教えてくれました。翌日の朝早く起きる約束
をしましたが、時間が経つのを忘れて夜中の2時まで漢字を筆で書きました。心に残
った瞬間がたくさんあります。あの1週間は本当に3ヶ月の夏休みほど思い出が
多いです。

日本を自分の目で見える機会をもらって、ありがとうございました。





Russia ロシア

ユニークな経験



海洋国立大学
バディコヴァ・イリーナ

この交流プログラムに参加できたことは、私にとってユニークな経験になりました。今まで東京周辺と京都しか行ったことがなかったので、島根は非常に興味深かったです。

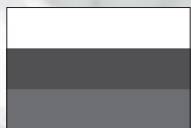
プログラムは充実していたので、島根のいろいろな自然のすばらしい場所につれて行ってもらい、主催者に対してとてもありがたく思います。私にとってはプログラムの中で一番印象的なことはホームステイでした。初めてのホームステイでした。ホストファミリーの家に心暖まる雰囲気があり、みんな陽気な人でした。一緒に花火に行ったり、ロシアの伝統的なクレープを作ったり、ミサンガを編んだりして、日本と日本人の心をさらに理解を深めることができましたと思います。

本プログラムの枠で福祉施設を訪問したことによって、自分が老年期に入ったら、どうするか初めて考えさせられました。今から健康を大事にし、スポーツをした方がいいと気づきました。交流プログラムの参加者と意見交換の時に、さまざまな意見を聞いてなんとなく他国のことが分かるようになりました。

キララコテージも印象的でした。景色が素晴らしくて、そこで日本の奥ゆかしさを味わえました。海岸で花火をして、とてもきれいでした。その時にまた話をたくさんしたり遊んだり、最高の寛ぎでした。

主催者をはじめ、関係の皆さんに厚くお礼を申し上げたいと思います。どうもありがとうございました！





Russia ロシア



海洋国立大学
ワラ・ガリーナ

交流の翼 in しまね - 2013

私は2013年8月2日から7日にかけて「交流の翼 in しまね」プログラムに参加しました。プログラムのテーマは老人福祉でした。ロシア、韓国、中国、日本の4ヶ国の代表者は老人福祉について発表しました。

4つのチームの発表を聞くと、それぞれの国において国家・民間機関が高齢者福祉に関して、医療から社会生活にまで幅広く手を加えていると分かりました。

各チームはお年寄りの生活を改善する社会対策についても教えてくれました。国家機関のみならず、関心のあるボランティアもスポーツ、エンターテインメント、お祭り等を主催し、お年寄りの生活をさらに面白くする活動はとても重要だと思います。

そのディスカッションのおかげで、老人福祉の問題は非常に重要と分かりました。個人個人が力を入れて、老人福祉に貢献出来ると考えることになりました。

「交流の翼 in しまね」プログラムに参加して、日本の文化、社会について知識を更に深めました。そして、老人ホームを自分の目で見て、日本のお年寄りの福祉を実感出来ました。

ホストファミリーの経験のおかげで、日本人の生活に触れ合うことが出来ました。多くの新しい人と知り合いになったり、観光地と花火を見たり、和太鼓を体験したりしました。毎日は印象的でした。

こんなに面白いプログラムに参加させていただきまして、誠にありがとうございます！



ホストファミリーからひとこと

(ホストファミリーアンケートより抜粋)

ホームステイを受け入れていかがでしたか。

- 家族間の会話がふえました。中国、現在の大学制度、大学生たちの生活、国の現状などについて、深く話し合うことが出来、よい交流になりました。
- 青年が礼儀正しく、かつ積極的に話しかけてきたため、話題に事欠かず終始よい雰囲気でした。また食事面でも問題ありませんでした。
- “国”の印象というものは、報道だけだと正しく判断できません。外国の青年と直接触れ合う機会をもてることは、自分の子供たちにとって貴重な経験になると思うし、青年たちにとってもそうであるとういと思います。
- 予定もつめすぎず、いろんな所へ行き、自分も相手も疲れすぎなくてよかったです。
- 日本庶民の生活に触れて若者の日本人に対する理解が少し進んだと思います。こちらも同様です。
- 今回のホームステイを通じて、国の間での考え方の違い、またお互いにわかりあうためにどう接していくか、とても勉強になりました。
- 暑くて、学生さんも動きたがらなかったし、一緒に活動がみつかりにくかったです。

滞在中はどんなことをして過ごしましたか。

- 買い物をして、一緒に夕食を作りました。(複数回答)。
- 観光(出雲大社、水郷祭、日御碕、堀川遊覧、フォーゲルパーク、ゴビウス等)(複数回答)
- ゆかた体験や、抹茶体験。
- 飼犬とのじゃれあい(出発直前まで青年は犬との時間を大切にしていた)。宍道湖までのサイクリング。
- 花火大会に合わせた納涼会と一緒にいき、私たち家族以外の人との交流。翌日は午前中はゆっくり過ごしたり、家族で休憩タイム。
- 松江特産のしじみを使って、しじみストラップを作り、お土産として渡しました。
- 習字をしました。

話題になったことは？

- 青年の将来の夢。入浴や睡眠時のスタイルなど。
- 大学制度、入試、恋愛など。
- 日本と青年の国の生活習慣の違いについて話しました。(複数回答)
- 韓国ドラマや家族、学校生活、K-pop などについて。

何か困ったことはありましたか。

- 最大の問題は言葉です。いろいろと苦心し、それはそれで面白いことでもありましたが、おもてなしとしては心残りがありました。
- 特にはないですが、会話の中で日本語が難しく？理解しにくい時は自分で「翻訳」をかけて調べていました。
- 違いはあって当たり前と思っていたので困りませんでした。
- 日本語が流ちょうな方でしたので、全く問題ありませんでした。逆に日本人の忘れつつある(失いつつある)奥ゆかしさを彼女の中に発見し、改めさせられた時もありました。
- 特にはありませんが、洗濯ものをしてあげたかったのですが、出して下さらないので心配でした。(何度かだすように伝えましたが。)

北東アジア交流の翼 in しまね

参加者 アンケート(抜粋)

● 参加者自己紹介・島根県紹介・交流活動 ●

- 島根について知ることができてよかったし、ゲームも楽しかったです。(中国1、韓国3、ロシア2)
- 自己紹介ゲームが面白くて、参加者の名前を早く覚えることができ、親しくなりました。(中国4、ロシア3、島根1)
- なかなか言葉が通じない時がありましたが、ボディランゲージを使うなどして会話しました。(韓国)
- 自己紹介ゲームで、全員の名前を覚えることができ、その後の活動でも名前で呼ぶことができました。交流活動のクイズはもりあがりましたが、ルール説明が全体に行き渡るのに手間取りました。(島根)
- 直前でやり方を変えたのですが、意外ともり上がって良かったです。(島根)

● 歓迎交流会 ●

- 各国の参加者は心をこめて出し物を用意し、各国の出し物はとても素晴らしかったです。(中国3)
- 出し物を一生懸命練習しましたが、うまくできなくて残念でした。(韓国)
- 出し物を披露したり、美味しい料理を食べたりすることがいい思い出になりました。(韓国1、ロシア1)
- それぞれの国の挨拶はあたたかくて、出し物は面白かったです。笑顔が多く、自分も笑顔で交流していました。快適な雰囲気でした。(ロシア)
- 素敵な歓迎会で、ホストファミリーと馴染むことができ、安心しました。(ロシア)
- それぞれの出し物は練習時間は短かったのですが、良いものができていたと思います。日本の出し物は盛り上げて良かったです。(島根)

● ホームステイ ●

- ホストファミリーの皆さんはとても親切でいい思い出がたくさんできました。すばらしかったです。(韓国3、ロシア1)
- 日本の生活や文化についてたくさん知ることができました。家族と一緒に観光に行きました。とても素敵な時間でした。(ロシア3)
- 日本の日常生活を体験することができて良かったです。日本の人と交流して、感情を深めることができました。(中国)
- よかったです。ホストファミリーと仲良く過ごし、いろんな考えも交流することができました。(中国)
- 書道や生け花などいい経験をたくさんしました。楽しかったです。(韓国)
- ホームステイはとても有意義でしたが、短かったです。もう少し長いといいなと思いました。(ロシア)

● 視察(高齢者介護施設 あっとホームゆりさわ) ●

- 施設の設備がよく整備されていて、日本の介護制度や施設について知ることができました。(中国3、韓国1)
- 施設の視察は忘れられない経験でした。日本人の高齢者のためにどんなにいい状況がつくられているのかわかり、感動しました。(中国、ロシア)
- よかったです。高齢者介護施設で高齢者に対する心遣いを感じました。(中国)
- 我々若者も高齢者にもっと関心を持たないといけないことを認識しました。これは私たちの義務と責任だと感じます。(中国)
- 福祉施設は初めてでしたが、本当にいい経験でした。(韓国)
- この施設はよく整備されて、明るいところでした。職員は親切でした。そこに住んでおられる高齢

者の方も私たちを笑顔で迎えてくれました。(ロシア)

- 高齢者福祉は現実的なテーマで、日本の状況について調べることは面白かったです。(ロシア)
- 雰囲気の良い施設でした。百合澤さん(施設の方)の考え方や熱意には感銘を受けました。外国青年たちもたくさん質問が出ていて、興味を持ってくれていると感じました。(島根)
- なかなか体験できない貴重な体験をさせてもらって、色々と考えさせられました。人手不足の点について、高齢者福祉の現状から考える良い機会を与えてくれました。(島根)

● 日本文化体験(和太鼓・仁多乃炎太鼓) ●

- 和太鼓の演出はすばらしかったです。(中国1、韓国1、ロシア1)
- 自分の国の太鼓や伝統音楽と日本の和太鼓との相違点を感じました。(中国1、韓国1)
- 日本の伝統文化を肌で体感して、とても面白くよかったです。(中国3、ロシア1、韓国1)
- とても楽しかったです。暑かったですが、汗を流した甲斐のあるいい経験でした。(韓国)
- 暑かったですが、とても楽しかったです。記憶に残る新鮮な経験でした。(韓国)
- 和太鼓体験はとてもおもしろかったです。見た目は普通の楽器ですが、種類が多く、様々な音を作ることができること知り、驚きました。(ロシア)
- 一緒に簡単な曲ができてとても楽しかったです。(ロシア)
- 青年たちが喜んでいるのを感じられてよかったです。みんなで何か1つのことに打ち込むというのは互いの距離を縮めるのにはとても良い活動だと思います。(島根)
- 炎太鼓の皆さんがとてもあたたかく迎えてくださって、演奏がとても心に響きました。炎太鼓の方の演奏後の拍手喝采で一体感が生まれました。(島根)

● 意見交換会(準備・発表) ●

- 各国の参加者の考え方や意見はとても参考になり、気づくことがいろいろありました。(中国4、韓国1、ロシア1)
- 各国の青年の考えを聞いて、高齢者福祉に関する様々な問題を認識するようになったし、各国の高齢者福祉についても勉強できました。(中国1 韓国2)
- このプログラムに参加するまでは、高齢者福祉について考えたことはありませんでした。ロシアに帰ると、やはりそれは大事で、今後自分の家族の将来について考えるべきだ感じました。(ロシア)
- 発表がおしてしまったので、もう少し時間の設定をはっきり伝えておけば良かったと思いました。(島根)
- 各国の現状がとてもわかりやすく発表され、事情がよくわかりました。意見交換も活発に行われ、我々の福祉に対する知識が深められました。(島根)
- どの国もとても細かくしっかり予習してきていて、発表への姿勢も良く、良かったです。(島根)

● お別れ夕食会 ●

- 各国の参加者が心をこめて自国の特色ある料理を作りました。違う国の美食を味わい、とても美味しかったです！(中国2)
- 各国の料理を食べてみるのができてよかったです。美味しかったです。(中国4、韓国3、ロシア1、島根1)
- お別れ会の時、スクリーンに写真を映し出されたことが一番印象に残っています。このプログラムを一生忘れません。(ロシア)
- スライドショーやプレゼント渡しなど思い出に残る夕食会になったと思います。最後にみんなで何かをすれば良かったと思いました。(写真撮影、コメントをもらうなど)(島根)
- 最後にはこれまでなかなか話せなかった人とも交流ができてよかったです。(島根)

- 国によって、料理を作る時間に差があったので、早く終わったチームは、他のチームを手伝う等の協力的な空気をつくりたかったです。(島根)

その他 ● プログラムの中で最も印象に残ったこと。全体の感想。 ●

- ホームステイが一番印象に残っています。(中国4、韓国3、ロシア2)
- ホームステイで日本の家庭で日常生活を体験し、日本文化に触れて、少し理解する事ができました。(中国2)
- 印象深いことがたくさんあり、何が一番印象的だったかは言い難いです。和太鼓の経験は何よりでした。(ロシア)
- キララコテージで、夜海でみんなと交流したことです。本当に楽しく過ごせました。(韓国)
- プログラム全体がすごくよくて、いろいろな角度から日本や島根を感じることができました。(中国)
- お別れ夕食会で、料理を作り、また他の国の料理を食べたのもいい経験でした。(韓国2)
- 意見交換会です。自分たちでは考えつかないような意見が出てきて興味深かったです。(島根)
- キララコテージでの会話。日本語や英語でうまく会話ができません、いつも通訳を求めている人が、ノートに書いていたりして理解しようとする姿を見ることができました。少し距離がちぎれた感じがしました。(島根)
- みんなが何に対してもノリノリで、心から楽しんでくれているのが伝わりました。(島根)

● 島根での滞在全般の印象 ●

- 充実した1週間で、いろいろな国の青年と交流して世界の文化を新たに知ることができました。(中国)
- 島根は景色がきれいで、人もすごく良かったです。(中国3)
- 交流事業がとても印象深く残っています。大変意義深いです。日本文化を体験し、日本人が普段どのように暮らしているのか知ることができました。(中国)
- 和気あいあいの雰囲気で各国の青年とよく交流ができました。(中国)
- 韓国と日本は仲がいいとは言えませんが、私が出会った日本人はとても親切でした。暑かったですが、世界各国の人と友達になれて良かったです。言葉は通じませんでしたが、お互いの国の言葉を教えたり習ったりしながら仲良くなって良かったです。(韓国)
- 静かでのんびりできる所です。観光する所もあって、景色もきれいでした。(韓国1、ロシア1)
- 島根県の方はみんな親切で面白く、活発な人に思えました。(韓国)
- とても素敵なプログラムで、島根県でもっと長く過ごしたいと思いました。島根県は自然がきれいで、人々も優しいです。もう一度島根県に来てみたいです。(ロシア)
- 長いようであっという間に時間が過ぎました。始めは国別にわかれている感じがありましたが、徐々に仲良くなっている感じがありました。(島根)

● 滞在中、困ったこと ●

- ありません。(中国5、ロシア3 島根1)
- とても暑かったです。(韓国1 ロシア1)
- 時間をもっと長くしてほしいです。(中国)
- プログラムをもう少し余裕を持って進めてほしいです。詰め込みすぎでいて、ちょっと大変でした。(韓国4)
- 休む時間がほしかったです。(韓国2)
- 日本語力が不十分で、少し難しかったですが、通訳があったおかげで、充実して交流に参加できました。日本語で話す自信もできました。(ロシア)
- 片付けなどを自発的にしないので何回も注意したりするのが大変でした。あらかじめ注意事項をしっかり言った上で活動した方がいいと思いました。(島根)
- 通訳がない時のコミュニケーション。英語が通じない時があります。(島根)
- フリータイムでも、交流員に通訳を求める場面が多く、なかなか距離がちぎれなかったです。(島根)

2013
北東アジア交流の翼inしまね
報告書

